



公議所日誌 第七至一〇

115  
23  
2





明治二年己巳四月

公議所日誌

第七上



公議所日誌第七上

四月七日會議日ニ付例刻議長秋月右京亮當分  
 議長同様心得森金之丞學校權判事心得豊岡前  
 大藏卿昌平學校一等教授心得中沼六位議事取  
 調掛議員百九十七人諸藩參聽人例席へ出仕第  
 十二字ヨリ第一號再改正議案ノ評論ヲ讀上ガ  
 畢テ里數改定ノ可否ヲ決定シ第二字半ヨリ通  
 稱ノ廢シ實名ヲ用ユベキ議案ノ評論ヲ讀上

公議所日誌七上



第五字ニ至リ未ダ全ク了ラザルニヨリ明ハ  
第十二字再會ヲ期シ一同退散セリ

第一號議案再改正

自諸侯至上士本末處置規則案

第一條

諸侯其領地ヲ割キ末家ト稱シ諸侯中下大夫上  
士タル者如シ家名斷絶ノ罪アルトキハ其秩祿  
公ニ収ムベキ事

第二條

家名斷絶ノ罪アルトキ本末ノ名稱ヲ以テ相連  
累セシム可カラザル事

第三條

一宗家ノ祿高ヲ減ジ別段判物ヲ受ザル者  
一藏米ヲ與ヘ土地ヲ分タズ判物ヲ受ザル者  
一半ハ土地ヲ分テ半ハ藏米ヲ與ヘ判物ヲ受ザ  
ル者  
一土地ヲ分テ宗家ノ祿高ヲ減ゼズシテ判物ヲ



受ザル者

一土地ヲ分チ判物ヲ受ケ宗家ノ禄高ヲ減ゼザル者

右ハ名實相適セズ自今判然分ツニ土地ヲ以テ判物ヲ受ケシメ新田アル者ハ新田ヲ分チ無キ者ハ宗家ノ高ヲ減ズベシ如シ家名斷絶ノ罪アルトキハ其規則第一案ノ如クナルベキ事  
一但シ判物ヲ受ケザル者本末熟和シテ宗家ニ合併セント欲スル時ハ其段願出可仰

朝裁事

二但新ニ判物ヲ賜フ者ハ必ズ本末分知ノ由緒ヲ判物中ニ詳載シ本末ノ分ヲ知ラシムベキ事

第四條

末家ヨリ更ニ末家ヲ建タル者其規則第一第二案ノ如クナルベキ事

第五條

新ニ末家ヲ建ントスル者前條ノ規則ニ從ヒ



朝裁ヲ請フベキ事

第六條

本家罪ナクシテ血統絶ユルトキハ末家ヨリ相  
續シ末家同断血統絶ユルトキハ本家ヨリ相續  
スベキ事

飲肥

稻津 濟

佐倉

依田右衛門郎

尼ヶ寄

服部清三郎

謹案

大垣新田

有竹衛門

紀州

伊達五郎

高鍋

坂田 莠

福知山

中野 齋 謹補

肥後

鎌田平十郎

右評論鈔出

第一條評論

坂口音度

末家断絶ハトキ秩禄ハ宗家ヨリ出ヤシ地ナレ  
バ宗家へ歸シ厚德ヲ示スベシ



同

三宅鑛太郎

間然ナシ願クハ天下ヲ平均シ郡縣ノ制度ヲ立  
テ後チ本末ノ論ニ至ラシ

第二條

輕部鷓彌

同意シテ其罪ニ當ルハ他家一族ヲ論ゼズ然ル  
レ一族ハ一族ノ親アルベシ然ルニ連累セズ  
バ親子兄弟之ヲ如何若シ皇化洽キ時ハ縱令  
善惡行ヲ違フモ親戚ノ免レ難キハ自ラ其罪ヲ  
謝スルニ至ラシ此等ハ論ゼサル方餘裕アリ

第三條 但書ヲ論ズ

關小四郎

本末合併云々ノ規則ハ設ケザルベシ熟和ノ名  
ノミニテ強奪ノ弊ヲ生ゼン

同

川西六藏

判物中ニ本末ノ由緒ヲ記事ヲ止テ別ニ本末  
ノ分其外士タル者ノ嗜ムベキ條々ヲ綴テ御布  
令アリタシ殊ニ庶民杯分家ノ者又後來田畠ノ  
爭論等無之様兼テ御布告アリタシ

同

毛受將監



判物ヲ不受モ、本末熟和云々本文ノ如クニテ  
ハ自今以後モ判物ヲ不受者アルニ疑アリ左ノ  
如ク改メ候テハ如何

但シ是迄判物ヲ不受者本末熟和シテ宗家  
ハ合併セント欲スル者ハ願出可仰  
天裁事

同

野村倫右衛門

本末熟和云々ハ永世ノ龜鑑ニハ載セズ別段御  
布令可然

第六條

赤見為右衛門

此件ハ養子ノ事ニ涉リ候得ハ掲出セザル方懸  
カナラン

同

毛受將監

此條省クベシ曰幕府定メ、如ク養子ハ同姓相  
應ノ者ヲ撰ヒ或ハ他家ヨリ相續スル方カ

同

磯部寛五郎

此條御省キニ相成本文ノ如キ事アル時ハ事實  
御糺シ相續致サセ然ルベシ

公議所日誌七上



同

中澤見作

末家本家ヲ相續セシ時末家ニ子女無バ本末ノ  
内庶子成ハ其家筋ニテ臣下同様ノ族ヲ以テ末  
家ヲ相續サスルカ又ハ末家相續ノ子女出生迄  
ハ其石祿ヲ本家へ預リ置キ可ナラシ然ラザレ  
ハ末家ハ他族ニテ相續スルノ弊ニ至ラン

同

四王天兵亮

末家ヲ本家ヨリ相續ノ箇條中ニ本家子弟ノ内  
ニテト云フ字ヲ書キ加フベシ

杉森六郎兵衛

本末共ニ血統ノ有無ヲ論ゼズ相續シガタキ子  
細アラバ家臣中ニテ取ルモ不妨血統ノ輕キヲ  
嫌ヒ異姓ノ重キハ取ルマジ

河口市之丞

罪ナクシテノ文言ダケ省キテ可然

野村倫右衛門

本文罪ナクシテ血統絶ルトキハ他姓ト雖近  
親由緒ノ養子願候様仕度候



第三條六條

小關與右衛門

本末ノ分ヲ知ラシメ并ニ血統相續云々ハ名教ニ係ル所ナレバ宜シク名教ノ條ニ讓リ紛雜セシメザルベシ故ニ判物ハ判物ノミニシテ蛇足ヲ添ザルヲ可トス

本文第六條ハ衆論ニ依テ刪去リ候事

里數改定可否決定ノ藩々可トスル者百七十二人

加州 駿州 尾州 紀州 肥後 肥前 藝州

|       |     |    |    |     |     |     |
|-------|-----|----|----|-----|-----|-----|
| 明石    | 一橋  | 雲州 | 田安 | 前橋  | 佐倉  | 中村  |
| 久留米   | 福山  | 長瀨 | 飯田 | 小松  | 勢州  | 龜山  |
| 與板    | 堀江  | 三草 | 舉母 | 飫肥  | 西尾  | 山崎  |
| 柳河    | 麻田  | 小城 | 敦賀 | 柳生  | 佐貫  | 松岡  |
| 新發田   | 小田原 | 作州 | 勝山 | 大垣  | 新田  | 柳本  |
| 本多紀伊守 | 豫州  | 吉田 | 西尾 | 隱岐守 | 大田喜 | 大田喜 |
| 秋田新田  | 糸魚川 | 丹州 | 峰山 | 大田原 | 延岡  | 延岡  |
| 成羽    | 岡部  | 西條 | 久居 | 新見  | 臼杵  | 鹿嶋  |
| 山家    | 郡上  | 三上 | 三春 | 飯野  | 高遠  | 古河  |



|    |    |    |    |    |      |      |    |    |
|----|----|----|----|----|------|------|----|----|
| 伯太 | 彦根 | 田邊 | 松代 | 尼崎 | 淀    | 平戸新田 | 大野 | 下館 |
| 高須 | 一宮 | 綾部 | 丸龜 | 高鍋 | 三日市  | 伊勢寄  | 生實 | 出石 |
| 龜山 | 園部 | 杵築 | 郡山 | 沼田 | 荻野山中 | 小倉新田 | 豐岡 | 壬生 |
| 小野 | 芝村 | 苅屋 | 川越 | 岩槻 | 宇都宮  | 三日月  | 松本 | 水口 |
| 安志 | 丹南 | 島原 | 唐津 | 高岡 | 宇土   | 栢原   | 新庄 | 吉井 |
| 神戸 | 小泉 | 田原 | 龍岡 | 高槻 | 館山   | 佐伯   | 八戸 | 日出 |
| 膳所 | 持木 | 守山 | 浅尾 | 推谷 |      | 薦野   |    |    |

|       |      |       |    |    |    |    |     |     |
|-------|------|-------|----|----|----|----|-----|-----|
| 井上河内守 | 七日市  | 水野羽後守 | 金澤 | 大垣 | 大村 | 高松 | 大聖寺 | 田原本 |
| 太田備中守 | 喜連川  | 廣嶋新田  | 榑良 | 土浦 | 多古 | 弘前 | 西大平 | 三根山 |
| 紀州田邊  | 熊本新田 | 昌平學校  | 濱田 | 宮津 | 富山 | 高田 | 西大路 | 多度津 |
| 小見川   | 久留里  | 房州勝山  | 高島 | 鴨方 | 小濱 | 中津 | 吉田  |     |
|       | 岸和田  |       | 三池 | 丸岡 | 笹山 | 秋月 | 庭瀨  |     |
|       |      |       | 三田 | 犬山 | 廣瀨 | 福江 | 赤穂  |     |
|       |      |       | 岡田 | 今沼 | 黒石 | 大溝 |     |     |

公義行日誌七上

乙



否トスル者七人

鳥山 小幡 完戸 林田 足利 山上 苗木

可否相半スル者六人

越前 平戸 安中 佐野 鯖江 森

無定論十三人

姫路 西端 母里 鶴牧 麻生 結城 府内

櫻井 高岡 田沼玄蕃頭 須坂 高取 岡

第一

通稱ヲ廢シ實名ノミヲ可用事

第二

亦官位ヲ以テ通稱ニ換ル等ノ弊モ矯シ上  
下一般實名ノミヲ可用事

軍務官判事

森金之丞

姓名ハ本ト各人ヲ分別スルノミノ者ナリ然ル  
ニ本邦從來通稱實名ト云フニノ者アリ通稱ハ  
何兵衛何左衛門等ノ類是ナリ然ルニ今其本原  
ヲ尋ヌルニ多クハ皆官名ナリ或ハ又間々異稱  
ヲ有スルモアリ其官ニ非ズシテ之ヲ稱シ其實



名ヲ用ヒズシテ異稱ヲ設ル等其不經ナル固ヨ  
リ論ヲ待タズ又官位五位以上ニ至テハ其國守  
國介ニ非スシテ濫リニ某ノ守某ノ介杯ト稱シ  
譬ヘバ大和守ト稱スル者モ真ニ大和國ニ守タ  
ル者ニ非ザルノ類比々是ナリ其他某ノ四位某  
ノ五位杯ト其位ヲ以テ其通稱ニ換ヘ偶同姓同  
位ノ者有之時ハ稱呼混淆シテ何人タルヲ辨識  
シ難キニ至レリ是皆實名ヲ不用ノ故ナリ且又  
實名ハ其字數モ簡約ナレトモ通稱ニ至テハ或

ハ一或ハ二字或ハ又五六字ヲ用スル者アリ  
實ニ煩雜無紀ノ至リト云フベシ故ニ以來一切  
通稱ヲ廢シ亦官位ヲ以通稱ニ換ル等ノ弊モ廢  
シ貴賤上下都テ實名ノミ相用候方可然奉存候  
同評論鈔出  
今村喜内  
帶刀ノ者ノミ實名ヲ用ヒ農工商等ハ從來實名  
無之ニ付何兵衛何左衛門等官名ニ涉ル者ヲ廢  
シ其餘ノ通稱ヲ用ユベシ  
大略同論ノ者

公議所日誌七上

二



|        |        |        |       |
|--------|--------|--------|-------|
| 西村捨藏   | 岩崎豐太夫  | 九鬼求馬   | 福井大助  |
| 佐藤 榮   | 平山志右衛門 | 久保田秀雄  | 宇田節之助 |
| 河口市之進  | 梶又左衛門  | 千野良之助  | 中野 齋  |
| 高木大之進  | 志賀律三郎  | 田丸謙藏   | 黒石 涯  |
| 富野見助   | 二階堂貢   | 山本昇之助  | 戸田 保  |
| 友松勘之丞  | 糟屋權兵衛  | 田村左中   | 蜂屋 新  |
| 生田郎兵衛  | 小原兵部   | 内田理兵衛  | 小紫 縝  |
| 松下直衛   | 四王天兵亮  | 太田省吾   | 今井金平  |
| 小林助右衛門 | 青宅郎左衛門 | 麻見達左衛門 | 澤邊弘三郎 |

永野壽郎兵衛 森 脩 國府寺源兵衛 清水源次郎

大意前ニ同クシテ小異ノ者

福井謙藏

但シ庶人ハ新ニ名ヲ命ズル者ノミ唯官名ヲ用  
 エルヲ禁シ其餘ハ旧ニ依ルベシ

田邊 確

但シ四位五位ノ爵名ノ下ニ實名ヲ加クベシ

持永治兵衛

但シ三等ニ別チ一國一邑ニ主タル者ハ其國邑



居所ノ地名ヲ取テ姓ヲ改メ實名ヲ用ヒ其以下  
ハ實名ヲ用ヒ其他名字帶刀ヲ許サザル農工商  
等ハ何兵衛何左衛門ノ類ニ非ザル通稱ヲ用ユ  
ベシ

中里行藏

但シ元服前致仕後道號ハ妨ナシ商賈藝人等國  
掾ノ名アリ全ク廢スベシ

生田小膳

但シ今日ノ急務ニ非ズ

但シ位階アル者ハ姓名ノ上ニ其等級ヲ書スベ  
シ

毛受將監

石原七郎

但シ五位以上真ニ其國守國介ニ非ザル者ハ何  
權守何權介ト稱スベシ且某大納言杯呼フ者ヲ  
廢シ其實名ヲ呼ブハ失禮ナリ

岡本直記

但シ有位ノ者ハ其官名ト實名トヲ用ヒ無位ノ



者ハ實名ノミヲ用ユベシ

喜多川鉄太郎

但シ下民ハ二字ノ通稱ヲ以テ直ニ之ヲ實名ト  
ナスベシ

那須金右衛門

但シ五位以上ハ實名ヲ用テ其他官名ヲ除クノ  
外是迄ノ通リタルベシ

堀江覺右衛門

但シ公卿ヨリ五位迄ハ自稱ニ實名ヲ用テ他ヨ

リハ某ノ左右府杯ト稱スベシ且ツ士以上モ幼  
少ノ者ハ何太郎ノ類ヲ用ユベシ

稻津 濟

但シ農工商ニハ強テ實名ヲ用ヒシメズ其意ニ  
任スベシ又姓ニ依リ通リ字ト稱シ同字ヲ實名  
ニ冒シ用ル者ヲ廢シ氏ト實名ノ一字ヲ用ユベ  
シ

長瀬久左衛門

但シ官位ヲ通稱ニ換ルハ漫ナレ氏他ヨリ其德



威ヲ尊稱スルハ則可ナリ又何守何介ノ空稱ヲ  
改ムルハ封縣郡縣公議確定ノ上議定スベシ

京僧彦助

但シ通り字ヲ廢シ更ニ實名二字ヲ撰シ貴族ハ  
姓官位實名ヲ稱シ士ハ姓ト實名ヲ稱スベシ

大久保金吾

但シ其國守國介ニ非ズシテ某守某介ト稱スル  
モ古所謂ノ遥授ナルモノニテ 朝廷ヨリ命ザ  
ラル、コアルマジト云難シ故ニ無實ニ私稱ス

ル者ノミヲ禁ズベシ且實名ハ廣ク文字ヲ取り  
通り字ニ拘ル可ラズ

笠間英之進

但シ國持ハ其國名ヲ稱シ某二位某三位ト唱ヘ  
其下ハ實名ヲ加ヘ小侯ハ居城陣屋ノ所在ヲ以  
テ何四位何五位ト唱ヘ其下ハ實名ヲ加フベシ

澤渡雙吉

但シ幼名或ハ致仕後道跡ハ相唱フルトモ害ナ  
カルベシ



但シ鄙賤ノ通稱ハ一字二字ヲ限り三字以上ハ  
禁制シカルベシ

小原兵部

坂田 莠

但シ實任ノ官位ヲ稱スルハ時宜ニヨルベシ  
就テハ其位ニ應スル尊稱ヲ一定シ様ノ字ノ如  
キハ之ヲ廢シ楷行草ノ書体ヲ以テ尊卑ヲ分シ  
ノ類總テ改正アリタシ且實名ヲ用ユル時本姓  
ヲ稱セズ氏ヲ加ヘテ穩ヤカサラン

中川潜叟

但シ姓モ廢シ難ク氏モ廢シ難シ實名ノミヲ用  
ユル時ニ至リテハ孰レヲ冠書スベキヤ辨解ヲ  
乞フ

鈴木太郎

但シ先ツ士以上ヲ改メ農工商ハ徐ニスベシ

若林勘兵衛

但シ里正市長等帶刀ヲ許ス者モ一切禁スベシ

二木縫殿助



但シ由緒有之農商ノ向ノニ實名差許サレ候ハ  
、農商勵ノ一助ニモ相成可申ト奉存候

生田平格

但シ農商分限家柄ノ者ハ格別其外ハ二字名ニ  
改メ可然カ

磯邊寛五郎

但シ官位ヲ以テ通稱ニ換ル云々官位相當ノ稱  
呼ヲ用ヒバ實名ヲ用ユルニ及ブマジキカ尤此  
等改革ノ件々ハ大基礎相立人心居リ合ヒ候上

ニテモ遅カルマジキト奉存候

村田忠之丞

但シ諸道往還ノ節ハ梓簡等ニ其官階ヲ表シ辨  
別ヲ明カニスベシ

塚本九一郎

但シ實名ノ上ニ官位ヲ書ス尤可ナラン

松本七兵衛

但シ即今無妨者ハ其俸被差置可然カ

荒井欽吾



但シ斯ノ如ク名稱相正ス上ハ冠婚喪祭ヲ始メ  
トシテ衣服ノ制度等速ニ御改正冀ヒ候

鈴木義太郎

但シ官位アル人ハ姓名ニ官位ヲ冠ラシメハ上下  
ノ區分判然タルベク存候

小林儀左衛門

但シ實名ノ上ヘ其官位ヲ加フベシ

岡田又吉郎

但シ五位以上ノ衆ハ姓名ノ上ヘ位階ヲ表シ貴

賤ノ分ヲ識シメ又納言ノ職ニ非ズシ大中納言  
ト稱マル者モ廢スベシ

兩森謙三郎

但シ官職ノ濫ヲ正シ名實相副シ譬ヘバ從一位  
議定某姓某正五位幾等軍將某姓某ト稱セシ若  
シ官無ケレバ位ヲ以テ姓ト實名ニ連テ呼ブベシ

服部清三郎

但シ私事ニ至テハ人ノ官位ヲ稱呼シ字ノ類ヲ  
設ケテ呼ブヲ許ルスベシ



但シ通稱二字ニ限ルベシ

此他猶評論アリ下ノ卷ニ出ス

補正

第五号一葉目豊岡前大内藏太夫ト

記セシハ前大藏卿ノ誤リナリ

堺和錦藏

白石若衛門

鶴居彦左衛門

松崎元右衛門

# 官版御用

## 御彫刻所

神田旅籠町一丁目

竹口瀧三郎

本町四丁目

## 御書物所

上州屋惣七



明治二年己巳四月

公議所日誌

第七下



公議所日誌第七下

四月八日議長秋月右京亮當分議長同様心得森  
金之丞議事取調掛議員百六十九人諸藩參聽人  
例席へ出仕各議員昨日讀之残りタル實名ヲ用  
ユベキ議案評論ヲ讀上テ畢テ漢土及第ノ法ヲ  
參用スベキ議案ヲ請取第四字半一同退散セリ

第四号議案撮略

第一



通稱ヲ廢シ實名ノミヲ可用事

第二

亦官位ヲ以テ通稱ニ換ル等ノ弊モ矯シ上  
下一般實名ノミヲ可用事

右評論鈔出

海野三雄

當今急務ニ非ズ先ヅ依然御差置可然候但シ通  
稱中謂レナク何兵衛何左衛門等ノ類ハ早々改  
ムベシ國守國介某ノ四位等云々我が賜ル處ノ

名ヲ以テ稱呼ニ換ヘ候事ニテ阻礙ナシ

立花次郎左衛門

邦俗重ニ通稱ヲ唱ヘ來候得バ俄ニ廢シ難シ其  
官ニ非ザル官名ヲ稱シ又ハ國守國介ニ非ズシ  
テ某守某介ト稱スルハ亦ズベシ又官位ヲ通稱  
ニ換ヘ候儀ハ禁ズベシ其他強テ害ナキ儀ハマ  
ガ御變換無之方カ

鈴木才藏

其國守國介ニ非ズシテ之ヲ稱シ又無位ニシテ



官名ヲ稱スル者ヲ改メ其他ハ後日ヲ待ビシ

小泉重兵衛

通稱實名ノ記稱ヲサリ一名トナシ文字ハ必ズ  
二字ニ定メ官位アル者ノミ其官位ヲ姓ノ次ニ  
認ムベシ

恒岡完次郎

尤可ナリ然レ其官稱ヲ用ニキ時ニ當テハ何  
邦何地何官誰某ト申如ク記シ無位在官上下ノ  
分ヲ正スベシ又従前藩主ヲ大名小名侯伯ト稱

スルハ御廢シアツテ國主城主藩主等ノ稱ニ一  
定スベシ

有竹衛門

議案至當ト云フベシ猶愚評ヲ述ルテ左ノ如シ  
一親王公卿諸侯諸士等名實適セザルノ官名ハ  
總テ改ムベシ  
一朝廷在職ノ公卿諸侯諸士官位姓名ヲ書スル  
時ハ必ズ其官位ヲ姓名上ニ冠スベシ  
一士分以上是迄通稱ト唱来リ候俗名ハ即今之

公議所日誌七下



一 廢シ其苗字ト實名トヲ用ユミシ  
 一 劍工鏡工等ノ類其位ニ非ズシテ官名ヲ用ヒ  
 候儀以來廢スミシ  
 一 菓子商人ノ類官名ニ紛ラハシキ名稱以來廢  
 スミシ  
 一 農工商等是迄實名ナキ者ハ直チニ其通稱ヲ  
 實名ニ相用ヒ不苦候

岡 音五郎

大略同論但シ僧徒ノ三位或ハ中將侍從等ノ稱

モ 廢スベシ

岡田雄次郎

都テ名ハ一ツト定メ是迄ノ通稱實名ノ内其好  
 ニ任シテ可ナラシ然レモ急務ニ非ズ暫ク舊貫  
 ニ依ルベシ位階ヲ通稱ニ換ル等ハ速ニ改ムベ  
 シ  
 通稱ヲ廢シ實名ノミヲ用ユベシ

戸塚左近衛門

堀内謹右衛門



此等ノ事速ニ改メテ可ナレ氏愚ヲ以テ見レバ  
改メザルモ害ナカルベシ

水野立三郎

此議可然ト存候尤本姓俗姓兩様相用候儀モ正  
スベシ

峯岸多喜馬

速ニ改メス氏可ナルベシ且之ヲ改メントセバ  
マヅ諸侯ニ令シ然ル後ニ中下大夫士ニ令スベ  
シ農商ハ帯刀者ノ外俗名ノマ、ニテ可ナリ

岡田勘右衛門

實名ノミヲ用ヒテハ貴賤相混ズベシ故ニ只今  
迄ノ仕来ヲ斟酌シ舊貫ニ仍ルベシ

川西六三

異論ナシ但シ以後草莽ヨリ拔擢ノ朝臣等其  
産土ノ地名ヲ稱セシムベシ且上下一般ニ實名  
ニスルハ却テ煩シカラシ故更ニ名制ヲ設ケ何  
ヤト俗通ノ二字名ニスルカ或ハ古ハ膳大伴部  
ヲ賜シ例ヲ推シテ農工商奴ト職別ノ俗稱ニス



鎌田平十郎

實名ノミヲ用レバ人ノ耳目ニ熟セズ文字ヲ不知者甚因ムベシ且實名通稱ハ名ト字ノアルニ類ス是ヲ偏廢スレバ尊卑ノ稱呼ヲ誤ルニ至ル然レモ匹夫ニテ官名ヲ冒ス者ハ禁制シ官員ノ四位五位等ハ廢シテ官階相當ノ名ヲ下スベシ人心未タ一定セズ故ニ上下一般實名ヲ用ヒナ

伊達五郎

貴賤ノ別ナクシテ却テ一害ヲ生ゼンカ然レバ名實明高ナル在官在位ノ人ハ其實ニアテ、稱スベシ尤衆議公定ノ上ハ上下一般ニ實名ヲ用ヒテ可ナラン

下津權内

マツ上ヨリ改メ候得バ下自ラ之ニ倣フベシ

矢吹卯之二

士分以上ノ規則タルベシ且其官ニ任ゼラレ其實アル者ハ其官名ヲ稱シ其他實ニ適セザル者



ハ實名ヲ用ユベシ

輕部鷓鴣

通稱官稱ノ弊ヲ矯メテ四民一般實名ノミヲ用  
ヒレテ最妙ナリ且以來姓ハ四民一般之ヲ用ユベシ

岡本治兵衛

物本ホアリ本ヲ正シテ後此等ノ末事ニ及ブベ

高橋和多留

一公卿ハ從來ノ如ク官位ヲ以テ通稱ニ換ユベ

シ

一侯伯ハ凡ソ一國ニ主タルニ非ズンバ其治處

ノ地名ヲ以テ某ノ守ヲ稱セバ如何

一萬石ニ足ラザル者總テ通稱ヲ用ヒバ如何

波多野澄右門

此等ノ事追テ改正スベシ且某ノ四位杯ハ姑ク  
通稱ヲ用ユヘシ

秋元慶之丞

下民ハ矢張通稱ヲ用ユベシ併シ此等ノ事ハ追



テ御改正アルベシ

熊谷貞藏

實名ヲ以テ通稱ニ換レバ其杜撰通稱ヨリ甚シ  
カルベシ

富永主馬

諸侯ハ從前ノ如ク何ノ守介ト稱スベシ其他ハ  
某ノ四位某ノ五位杯ヲ除クノ外舊ニヨルベシ  
且農商ハ官名ヲ冒ス者ヲ廢シ其他ハ從前ノ如  
クスベシ

富松何左門

實名ノミヲ用レバ却テ混淆スベシ故ニ通稱ニ  
字ニ限ルベシ尤國守國介ニ非ズシテ守介ヲ濫  
稱スルハ廢スベシ

増田 貢

此事急務ニ非ズ暫ク舊貫ニ仍ルベシ

小關與右衛門

凡風俗教化ニ妨ナキ弊習ハ漸ヲ以改ムベシ通  
稱ヲ廢シ實名ヲ用ユル等ノ事亦如此ノミ



杉森六郎兵衛

通稱ヲ廢シ實名ノミヲ用ユルヲ簡ニシテ古俗ニ叶ヘリ但シ下輩ハ兩名ノ内勝手次第一名ヲ用ヒ官名ノ字ヲ禁ズ將又謚号モ御改正有度事

坂口音度

一國一圓ノ者ハ某ノ國守ト稱シ分國萬石以上ノ者ハ其領知ノ名ヲ冠シ某ノ侯ト稱シ大夫士ハ氏ト名ヲ加ヘ大夫某士某ト稱セバ尊卑定リテ不經ナラズ其餘ハ舊俗ニ遵テ可ナリ

加藤右門

官位アル者ハ爵位ノ下ニ實名ヲ置テ稱呼スベシ官位ナキ者ニシテ官名等ヲ稱スルハ禁ズベシ上下一般實名ヲ用ユルハ不可ナラレ宜シク後日ヲ待ツベシ

加藤修造

大基礎一定ノ後ヲ議スベシ

和田理兵衛

官名ヲ稱スルハ必位階アルベシ因テ有位ハ位



階ヲ實名上ニ書加フベシ然レモ官名ノ儀ハ中  
古郡縣ノ官名ナレバ當今不得其實今度封建郡  
縣御決定ノ上更ニ御改正可有之間今之ヲ論ゼ  
ズ尤農商ハ官名ヨリ来ルヲ除クノ外後來ノ通  
稱ヲ用ヒテシカルベシ

赤見為右門

建議ノ趣キ至當ナリ願クハ位階等虚稱ニ屬ス  
ル者ヲ改メテ後是等ニ及ブベシ

人見秀雄

其國守國介ニ非ズシテ守介ヲ稱シ微賤ノ者衛  
門兵衛ト稱スル類皆改メテ可ナラン

榊原專藏

官職ノ名實適スル者ハ姓名ノ上ニ其官位ヲ帶  
ル當然ナリ然ラザレバ何等ノ人タルヲ分別シ  
ガタシ朝廷ノ叙任ニ預カル者トテモ真ニ其職  
掌アルニ非ズ名稱ノミヲ授カルナリ最不經ノ  
甚シキナリ朝廷ヨリ先ツ其非ヲ御改正被遊  
テ後臣下僭竊ノ名稱ヲ御詰責コソ至當ノ儀ト



存候

近藤門造

實名ノミヲ用ユルハ俗理ニ及スル儀ト云ベシ  
且以來ハ一ヶ國ニ一諸侯ヲ守トシ其餘ハ輔弼  
ノ稱ヲ賜リ士農商ヲ三等ニ分チ士ハ一字トカ  
農ハ何三何六商ハ何七何八トカ都テ數ノ字ヲ  
以テ通稱トセバ上下判然トシテ妨ナシ

近藤百助

公卿諸侯士有位有官ノ者ハ其官位ヲ以テ名實

相適セシメテ是ヲ稱シ無位無官ノ士ハ實名ヲ  
以テ稱シ農工商ハ太郎次郎等ノ名ヲ以テ稱ス  
ルトキハ四民ノ別分明ニテ便宜ト奉存候

杉浦兵庫

上公卿ヨリ下モ陪臣士分迄實名ヲ用ヒ士分以  
下農商ハ官名ニ似タルヲ禁ジ在来ノ通稱ヲ用  
ヒ醫生ハ等級ニ應ジ前例ニ倣フヘシ士分以上  
ノ隱居ハ雅号ヲ用ヒ以下ハ雅号ヲ禁ジ矢張通  
稱ヲ用ヒシムル時ハ名實判然シテ可ナラン



錦織四郎大夫

士以上ハ幼名太郎二郎ヲ稱シ十五以上ニ至テ  
實名ヲ字音ニテ稱スベシ庶人以下ハ何助等ノ  
二字名ヲ通稱トナシ必シモ實名ヲ不用方可然  
帆足龍吉

士以上ハ實名ヲ稱シ以下ハ其俣被差置唯官名  
大ケヲ禁ゼラレテハ如何哉且實名ハ訓讀一ナ  
ラズ候間實名ニ可用程ノ字ヲ彙メ一ツノ正訓  
ヲ註シテ冊子トナシ遍ク天下ニ頒チ其訓ニ照

シテ稱呼イタシ候ハミ 錯讀ナカルベキカ

依田右衛門郎

實名ニスルハ宜シケレ氏訓讀ニスル時ハ一字  
ニシテ數訓讀難キニ至ルベシ音讀ニシカズ且  
官位ヲ通稱ニスルハ己ヨリシテハ宜シカラ  
ズ人ヨリシテ之ヲ稱シ古ノ名ヲ指ザルノ例ニ  
從フベシ

松崎彦右門

實名ハ同字ニシテ種々ノ唱ハ有之候依テ字音



ヲ用テハ如何ヤ農商以下ハ官名ヲ除クノ外ハ  
是迄ノ通可然候

田邊九郎右門

貴賤上下實名ヲ用候儀可然但シ悉ク音讀ニ定  
リ候ハシ稱呼モ又安カラシ

松下加右衛門

社家并末々工商ノ内官名ヲ冒シ稱スル者御廢  
シ可然愚民共ハ是迄ノ通稱ニテ其他ハ實名ノ  
ニ用ヒ至當ト存候

乾 新作

異論ナシ但シ農工商ハ官名ニ係ル稱ハ禁ジ其  
餘通稱ヲ用ユベシ且工商其業ニヨリ國名又實  
名ヲ稱スル者禁止可然

嶋田平右門

實名ヲ用ユル可ナリ尤音ヲ以テ讀ムベシ且位  
階アル人ハ苗字ト實名トノ間ニ其位ヲ記シ庶  
人トノ分界アルミシ農工商官名ニ屬スル名又  
神官ト筮鍛冶等ニ某ノ守ト稱スルモ廢セラル



三  
シ

北村經藏

實名ハ士以上及ビ祝士醫生等ニ止リ農工商ニ  
關セザルベシ尤官名ニ原由スルハ禁ズベシ然  
レ氏今日ノ急務ニ非ズ又名實適セズ或ハ稱呼  
混淆スルハ改ムベシ且釋氏ノ徒官名ヲ用ユル  
者概シテ改ムベシ

園田 保

世俗官名及東百官名等ヲ以通稱トスル類禁之

可ナリ實名ヲ通稱ニ代ルハ簡便ニ似タレト遽  
不可行九事ノ義ニ害無者一切俗ニ從フヲ可ト  
ス

中澤見作

議案ノ如クスル時ハ貴人ヘ對シ直ニ諱ヲ呼ビ  
禮ナキニ似タリ然レ氏殿下足下等ノ文字ヲ用  
ヒ或ハ位階ノ差ヒニ因リ別ニ衣服ノ制相立タ  
バ自ラ貴賤ヲ別ツベシ男子加冠ノ禮ヲ行フ迄  
ハ小字ヲ稱ヘ成人ノ後實名ヲ稱スベシ

公議所日誌七下

七下



久松修理

實名ニ一定スルノ議至當ト云ベシ尤通り字或ハ歸納字ニ關セズ廣ク字ヲ撰ミ唱ヘ易キヲ主トセバ上代ノ風ニ歸スベキカ鄙賤輩ニ至テハ其官名ニ属スル名ノ如キハ音聲ノ近キ字ニ換ヘ又ハ字數ヲ減ジ是迄ノ通稱ヲ名トスベシ因テ按スルニ衣服ノ制又ハ惣髮雜髮等ノ人毎ニ其容ヲ異ニスル者願クハ名ヲ改ムルト共ニ速ニ御定制可然奉存候

岩田瀨左衛門

建議適當ナレバ方今變制ノ事少カラズ俄ニ通稱ヲ廢セバ士民恐クハ變制ノ多キヲ厭ハシ又官位ヲ以テ通稱ニ換ル混淆シテ辨ジ難シ又其官ニ非ズシテ官名ヲ假ルアリ共ニ通稱實名ヲ兼用セバ判然タラン濫ニ官名ヲ假ルハ廢スベシ  
加藤小左門  
通稱ヲ廢シ一般實名ニセバ同稱混淆シ且下民ニ至テハ改ムル事難カルミシ又姓官位實名ヲ



稱スルヲ常トシ略スルハ姓實名ヲ稱シ無位  
ハ通稱ヲ用ベシ如是セバ官位ヲ稱セザル時モ  
有位無位判然タリ

善野 司

子孫世々父祖ノ通稱ヲ襲フ者多有之追孝ノ一  
端ナリ又一字ヨリ五六字ニ至ト雖モ稱呼ニ習  
ヒ繁雜ナルヲ知ズ改メズシテ可ナリ但シ官名  
大ハ禁止スベシ又何三位何五位ト稱スルハ尊  
敬ノ意ヨリ出ルモノニテ敬禮ノ一端ナリ但シ

諸侯以上其領スル所ノ地名ヲ以稱呼ニ換ルハ  
可ナリ實名ヲ以テ稱呼トナセバ同姓同名益多  
ク紛雜ニ堪ザラン

高木東一

強テ異論ハ無之併貴賤都テ實名ノミヲ用ヒテ  
ハ同姓同名多ク相成混淆スベキカ但シ兵衛ノ  
類下賤ノ者ハ革メ可然且四位五位ヲ以テ名ト  
スルハイカミト奉存候

綾部誠一郎



至當ノ論ト謂フベシ併位アル者ハ位ヲ加ヘ何  
位何某ト記スベシ且自今法名ノ法ヲ廢シ神主  
墳墓等ニハ實名ヲ用ヒタキコトナリ

武田平之助

御基礎確立ノ後チ徐ニ改正スベシ

大略同論ノ者

- 来次傳四郎 加集寛介 増田鏘太郎
- 岡田 孝 加藤修造 佐藤右工門
- 三宅鑛太郎 馬場峻太郎

大略同論

原 株之助

但シ一家ニ數子有時ハ伯仲叔季等ノ字ヲ以  
テ順序ヲ知ルヲ要ス

第一号 御下問決議奉伺

天裁候書付

第一號 御下問三次會議衆論一定仕候ニ付即  
奉伺

天裁候若シ御改正ノ廉有之候節ハ勿論御採用



有無共ニ御垂示、上御施行有之度候也

四月

議長

猶以御垂示、節議案二枚ノ内一枚ハ御採用、有無共御檢印、御附札有之度候也

別白

第一号御下問初次會議異論區々ニテ一定難仕候ニ付衆員中五名ヲ公選シ公論ヲ採リ改正為致次會ニ衆說承候處一二ヶ條未足、廉有之依テ之ヲ補ヒ相示シ候處三次會議、節猶第六條

ヲ刪ルベシトノ議多キニ歸シ候間即刪之遂ニ

衆議一定ニ至候何卒御施行有之度候也

第三号決議奉伺

天裁候書付

第三号里數改定ノ議御採用相成可然旨衆議一定仕候ニ付即奉伺

天裁候若シ御改正ノ廉有之候節ハ勿論御採用ノ有無共御垂示、上御施行有之度候也

四月

議長



猶以御垂示ノ節議案二枚ノ内一枚ハ御採用ノ  
有無共御檢印ノ御附札有之度候也

# 官版御用

御彫刻所

神田旅籠町丁目

竹口瀧三郎

本町四丁目

御書物所

上州屋惣七



明治二年己巳四月

公議所日誌

第八上



公議所日誌第八上

四月十二日會議ニ付例刻當分議長同様心得森  
金之丞議事取調掛議負百九十三人外ニ水野羽  
後守并ニ諸藩參聽人例席へ出仕例刻ヨリ議負  
漢土及第法ヲ參用スベキ議案ノ評論ヲ讀上ガ  
討論シ畢テ改正第四号ノ議案ヲ請取第四字半  
一同退散セリ

漢土及第法御參用可然之建白



會計官權判事 神田孝平

謹案古今萬國士ヲ取ルノ法品々有之趣ニハ候  
得共最公正ナルハ漢土ヲ第一ト致シ候趣西洋  
人ノ常々稱揚仕候所ニ有之候我邦從來士ヲ取  
ルノ法備ハラズ就テハ此度御新政ノ折柄漢土  
ノ法ニ倣ハセラレ進士及第ノ法ヲ御用ニ相成  
候ハシ會議ノ法ト並ビ行ハレテ東西ノ兩美ヲ  
御合併ノ形ト相成可申候  
但シ會議ノ趣意ハ人心一和ヲ致スニ在リ及

第ノ趣意ハ人材ヲ舉グルニ在リ並行ハレテ  
相悖ラズ此意御會被成下度奉願候

尤漢土及第ノ法ニハ頗ル流弊モ有之由右ハ全  
ク科目ノ立方不得宜ト試官ノ公正ナラザルト  
ニ出ル事ト相見候ハバ今略改正ヲ加ヘ試ニ其  
有増ヲ奉申上候  
毎年一度ツ、時日ヲ定メ海内ノ有志ノ士ヲ募  
リ其才學ヲ試ミ優等ニ登ル者ヲ舉ゲ四等以下  
ノ官ニ任ジ之ヲ實際ニ試ムベシ



科目ハ實地適用ヲ主トシ和學漢學經濟文章天文地理兵學律學醫學博物學ノ類タルベシ  
但シ詳ナル事ハ會議ニテ取極可然カ  
試官ハ議事所ニテ臨時ニ之ヲ撰擧スベシ  
試業ノ法ハ當日試官ヨリ策問ヲ發シ其場限ニ  
對策ヲ作ラセ名ヲ隱シ置試官各甲乙ヲ記シ甲  
字最多キ者ヲ上等トスベシ  
右ノ通三回ノ試業ヲ為シ三回共ニ上等ニ登ル  
者ヲ甲第トスベシ

試業ノ後對策ニ試官ノ甲乙ヲ記シタル儘作者  
ノ姓名國所ヲ記シ登第落第并ニ其任ゼラレシ  
官階ヲ録シ合シテ一卷トナシ上梓シテ天下ニ  
公示スベシ  
以上試業法ノ大略ニ御座候猶詳ナルヲハ時ニ  
臨ミ酌定可仕儀ト奉存候  
右ノ如ク御法相立候得ハ大抵流弊ノ生ズベキ  
御懸念有之間敷若シ然レバ古今萬國ニ御超越  
被遊候御良法ニ有之ベクト愚考ノ儘不顧狂妄



奉申上候

右評論鈔出

前文議案同意ノ者ハ載收セズ

川西六藏

對策ノ上等ナル者ヲ議案ニシテ衆議ニ掛ケ對策者自ラ讀上ルキ質問討論シテ之ヲ察シ然ル後ニ可否ノ入札ニテ可ノ字多キ者ヲ舉グベシ

奥村權之助

至當ノ論ナリ然レ氏我國漢土ト自ラ風習ヲ異ニス猥ニ施行ス可ラズ本文參用ノ字ヲ熟考ス

ベシ

福井謙藏

兩京大學校及ビ府藩縣ニ舉司ヲ置キ生徒郷貢ノ行狀學藝ヲ鑒ミ舉狀ヲ添ヘテ差出サシムル事  
科目中ノ和學漢學ヲ除キ歴史軍略武藝等ヲ加ル事  
郷貢ニ旅費ヲ給セラル、事  
初落第ノ者其材質ヲ撰ビ造士トシ明年再試第ニ及バザル時放還ノ事

二木縫殿助



講武ノ一科ヲ本文科目中ニ列シテ文弱ノ弊ヲ防グベシ

青山七郎左衛門

大略同論

志賀律三郎

本文試業ノ法ニテハ作文ニ長ズル者ノミ優等ニ登ルベシ其徳中チニ充チタル士ヲ察シテ舉グベシ

塚本九一郎

大略同論

戸田保

科目ノ内ヘ徳行ノ目并ニ武舉ノ科ヲ加フベシ

磯部寛五郎

大略同論

佐藤榮

有志ノ士ニ不限庶人ニ至ル迄徳行ヲ本トシオ学アル者ヲ募リ試ムベシ

宇田節之助

至當ナリ然レモ慎重御施行漢土浮華ノ弊ヲ踏



ムベカラバ

大略同論ノ者三人

成田作左門 松崎元右門 加藤右門

雨森謙三郎

府藩縣ニ令シ廣ク学校ヲ興シ人材教育ノ道ヲ興スベシ且本文科目中へ孝弟德行等ノ科ヲ加フベシ

大略同論ノ者七人

高橋和多留 中里行藏 小原兵部

樋口十郎右門 小林儀左門 岡田勘右門

岩崎豊太夫

有竹衛門

尤妙ナリ宜シク郡縣ノ議ヲ決シテ後此法ヲ立ツベシ尤試法ハ庠序ヨリスベシ

鎌田平十郎

府藩縣ニ令シ学校或ハ官舎ニテ郷試ノ例ヲ用ヒ其選ニ中ル者ヲ都下ニ解送シテ試ムベシ尤武官ノ者モ試用アツテ文弱ノ弊ヲ矯ムベシ



恒岡完次郎

同論

中澤見作

毎年四月ヲ以テ試ムベシ實際ニ試ルハ半歳ニ  
限ルベシ且科目云々ハ和漢混淆天耶兩教浸入  
シ易キノ憂アリ和文章ハ固ヨリ我が學ブ所ナ  
レバ科目ニ加フ可ラズ科目ヲ四綱ニ分ツテ尤ノ如シ

經世學

會計學 典禮學 法律學 營繕學 民政學

商業學 礦山學 輿地學

海陸兵學

築城學 造艦學 砲術學 操練學 航海學

器械學 兵術學

理學

天文学 地理學 數學 博物學

醫學

内科学 外科学 本道學 解体學

尤理學醫學ハ會議所ニ稍遠キ者故各所學校ニ



於テ試ムベシ且試業對策ハ和文ニスベシ

杉浦兵庫

唯法律ノミヲ以テ撰ムハホダ全キヲ得難シ即  
今更ニ藩主ニ命ジテ士ヲ舉ゲシメ府縣ニ監察  
使ヲ置テ人撰シ此及第ノ撰ヲ得タル者ト併セ  
テ官ニ任セバ取士ノ法備ルト云ベシ

山崎 傳

實才實学ヲ洞察スルハ試官ノ任ナレバ試官ヲ  
撰スルハ肝要ナリ

永野壽郎兵衛

經濟ノ才ヲ抱テ策文等ヲ能クセザル者ハ之ヲ  
熟察シ策文ニ抱ハラズ採用アリタシ且試業ノ  
法モ鄙説ヲ陳ス

甲科 試業三四共ニ上等ニ登ル者四等官以下  
ノ官ニ任ジテ實際ニ試ムベシ

乙科 二回上等ニ登ル者五等官以下ノ官ニ任  
ジテ實際ニ試ムベシ

丙科 一回上等ニ登ル者姓名ヲ簿ニ記シヲキ

公議所日誌八上



明年ノ試業ヲ待其時復一回上等ニ登レ  
バ乙科ニ准ジ五等官以下ノ官ニ任ジ實  
際ニ試ムベシ

稻津 濟

良法ナリ然レモ試官ハ新建ノ待詔局ニテ撰ミ  
試官ニスバシ且文章實行兩美ヲ兼ル者寡シ故  
ニ三試シテ中以上ニ登ル者ハ對策ノ件ヲ精細  
ニ質問シ其辨論ヲ試ミ對策辨論共ニ上等ノ者  
ヲ甲第ト定メ對策ニ試官ノ甲乙ヲ記シタル儘

議事所ニテ可否得失及ビ某官ニ任ズベキ等ヲ  
公議スベシ

中野 齋

良法ナリ然レモ優等ノ外猶次等ノ者モ兼テ簿  
籍ニ記シ置キ缺官アルノ日順序ヲ以テ舉ルモ  
可ナリ又缺ルニ當テ臨時ニ此法ヲ行フモ  
可ナリ且御一新後朝官ニ任ゼラレシ者若シ其  
當ヲ得ザルノ說アラバ此試法ヲ踐マシムベシ  
議真ヨリ登庸ノ者ハ尤精選スベシ



生田平格

文章實行兩テ兼ル者寡シ故ニ文章技藝ノミヲ  
取ルベカラズ且文章ハ假名字ヲ交ヘ認ムベシ

北村經藏

大略同論

中川潜叟

登第落第上梓シテ公示ス云々ハ進取ノ弊ヲ生  
ズルノ本ナリ登第ヲ示スハ猶可ナリ落第ハ断  
然示スベカラザルナリ

服部清三郎

良法ナリ但シ四等以下ノ官ヲ授ルハ過當ナリ  
六等以下ノ官ヲ授クベシ

依田右衛門郎

一及第法ヲ立ントナラバマツ天下ニ学校ヲ設  
クベシ

一大學校ニ試ムベキ者ハマツ諸州学校ニテ試

ミ然ル後ニ大學ニ貢スベシ

一試官ハ其人ヲ得ガレバ試ハルモ益ナシ



一進士等已ガ科目ノ外ニ時務策ヲ試ハベシ  
一奇材異能ノ士ハ別ニ保舉法ヲ立ベシ

麻見達左門

同論

中金稱平

科目中ハ武術ノ科モ設クベシ且學者徒テニ博  
識ヲ務メ實用ヲ務メザル可ラズ

岡本治兵衛

此法行レバ無恥濫進ノ弊ヲ生ゼン非常ノ士ヲ

聘スル設ケアリ然シテ舉爾所知トノ古訓ニ從  
フベシ

岩田瀨左門

大略同論

武田平之助

允當ナリ漢土郷貢ノ姿ニ倣ヒ府藩縣ニ令シ撰  
舉イタシ試テ可ナリ

蜂屋新



大略同論

松崎彦右門

那須金左門

試官ハ行政官ヨリ御撰任相成リ議事所ニテハ  
心付候人物有之節申上候事ニ仕度候

日置熊次郎

宜ク虚文ヲ後ニシ實理ヲ先ニシ時務經濟等ノ  
科ヲ設クベシ且試官其人ヲ得ル一尤肝要ナリ

坂田 莠

考校功過課試才藝ノ二者今日ノ急務ナリ漢法  
備ルト雖モ亦弊アリ 本朝考課法載セテ令中  
ニアリ斟酌シテ一良法ヲ立ベシ對策ノミニテ  
ハ虚文ニ流ル試藝ノ法並行フベシ

森安七右門

一試官ハ明識公正ヲ要シ進舉ノ人ハ畎畝漁鹽  
ノ中ト雖モ之ヲ舉グベシ  
一若シ其人窮乏ナレバ其官廳ニテ其資用ヲ助  
ケ進舉スベシ



一若シ小過アリトモ改之ニ於テハ進舉ニ害ナシ  
一漢土孝廉或ハ賢良茂才等ノ科アリ是等ノ意  
ヲ本トシテ選舉スベシ

友松勘之丞

美事ナリ但シ及第ノ法舉リ候得バ人材ヲ養フ  
ノ費用ハ府藩縣ニ募ルベシ

坂口音度

美事ト云ベシ先ヅ郷校ヲ建有志ノ者ヲ学ニ入  
レ才徳成テ王都ニ貢スベシ又有志ノ上言スル

者等ハ公議所ニテ議負ト討論ヲナサシメ言行  
一ナラバ登庸スベシ

此外猶評論アリ下卷ニ出ス



官版御用

御彫刻所

神田旅籠町一丁目

竹口瀧三郎

御書物所

本町四丁目

上州屋惣七



明治二年己巳四月

公議所日誌

第八下



公議所日誌八下

第五号議案撮略

漢土及第法御參用可然之事  
石評論鈔出

佐藤八右衛門

漢土及第ノ法ニ倣フ美事ト云ベシ然レドモマ  
ツ府藩縣ニ學校ヲ建後ニ試業ノ法ニ及ベシ尤  
利禄ヲ急ニスルノ弊アリ教ユル者ト試官ト其



人ヲ得ザレバ行レ難シ

輕部鷓彌

極テ妙ナリ試法其他ハ機ニ依テ換フベシ

村田忠之丞

大小ノ學校ニテ教授方ナル者生徒ノ所長ヲ察

シテ朝ニツゲ時日ヲ定メテ各課各局ニ試ミ

名實相適セシ上選舉スベシ

近藤百助

良法ナリ然レドモ科學ハ空文無益ニ成行モノ

故試官ヨク其人ノ正邪ト實行トニ注意スベシ

立花次郎左門

文學經濟兩ヲ兼ルヲ得難シ學力ノミヲ以テ士

ヲ取ラバ恐クハ任用適宜ヲ失セシ

久松修理

至要ノ儀ニ候普ク府藩縣ニ令シテ公撰ノ法ヲ

設ケ學科ヲ以テ人ヲ撰ミ之ヲ朝廷ニ達シ然

ル上試業ノ法ヲ以テ實際ニ試ムベシ且試官ハ

豫シメ御精選有之度候



小關與右門

極テ是ナリマヅ藩々ニテ選舉ノ法ヲ設サセテ  
以テ貢メシメ且虚飾僥倖ヲ防グノ術アリタシ

澤邊弘三郎

本文募士ノ說泛然紛紀ナシ別ニ好措置アルニ  
シ然レドモ御國体確立ノ後議シテ可ナリ

笠間英之進

御採用ノ上漢代制ニ倣ヒ賢良方正等ノ科目ヲ  
添ラレ篤行ノ士モ御登庸アラセラレ可然候

増田 貢

先郷試ノ法ヲ府藩縣ニ下シ舉人ヲ定メテ輦下  
ニ貢シ場屋ノ會試ニ登第シテ後官職ヲ授クニ  
シ科目ハ文武ノ二科ヲ建其術ニ精キ者ヲ試官  
トスベシ試官ハ臨時ニ選マバ輕易ニ屬セン公  
卿諸侯中ニ試長ヲ選ミ又宿儒ヲ選テ主考官ニ  
比スベシ且落第ヲ天下ニ公示セバ生徒落第ノ  
辱ヲ恐レテ舉業ヲ廢セン

清水源次郎



異存無之候但シ科目ノ中農學ノ課目ヲ御加ヘ有テ可然候

關 小四郎

府縣ニ學校ヲ建士ヲ貢セシムベシ且進士ノ登第落第ヲ以テ府縣知事ノ殿最ヲ定メシ

鈴木才藏

人ヲ取ルニ實地ヲ用ルヘ肝要ナレハ試官尤意ヲ用ユベシ

田邊 確

異論ナシ科目試官策問等心ヲ用ユベシ

四王天兵亮

國人尊奉スル所ノ者ハ假令博識ナラザルモ必ズ用ユベシ科目ニ拘ル可ラズ

京僧彦助

試業ノ法三四回ヲ限ラズ數度其賢才ヲ試ミ又其行ヲ熟察セバ遺憾ナシ

福井大助

異論ナシ尤有志ノ士ヲ募ルノ規則宜ク工夫



ルベシ

戸塚左近衛門

公平ト存候只願クハ別ニ一條ヲ掲ゲ實際的當  
欺クベカラザルノ法ヲ設ケ更ニ一層ノ確定ヲ  
加ヘハ詮棟ノ法遺漏ナカラシ

高柳安右門

同論

坪和錦藏

良法ナリ然レトモ三回ニ及ビ見識アル者ハ煩

キラ厭シ又文章ハ巧ニシテ行惡キ者アリ糺サ  
ゞルベカラズ且廉潔ノ者ヲ拔擢スルヲ緊要ナ  
リ

羽室雷助

宜ク府藩縣ニ命シ賢良方正等ノ士ヲ選舉セシ  
メ之ヲ實際ニ試ミ夫々御登庸アリ度候

園田保

試官人ヲ得ルヲ肝要ナリ且試業ハ春秋二度ニ  
定ムベシ



此法速ニ現職ノ者ニ試ミ不學無術ニシテ僥倖ナルモノ退テ後真ノ賢才始テ出ベシ

善柱 司

岡田吉太郎

及第法ハ宜ク府藩縣へ學校ヲ設ケ順序ヲ以テ朝官ニ拔擢スベシ尤詞章ノ弊ヲ防キ實際ノ法ヲ設クベシ

森 脩

大略同論

マヅ一年行レテ追テ永制ト定ムベシ 諸大小藩ノ定員ヲ立テ藩主ニ令シ人才ヲ選出セシム尤奔競射利ノ徒妄進ヲ得セシメズ且試官得人ヲ肝要ナリ

杉森六郎兵衛

岡田 孝

豫メ府藩縣ニ命ジテ人物ヲ選舉セシメ其上ニテ對策及第ノ法ヲ行フベシ

小林助右衛門



對策ニハ漢文ヲ用ヒズシテ實地適用ヲ心掛ケ  
可申候又募士ハ法ハ府縣學校御取立相成才能  
アル者ヲ試テ後出サシムベシ又甲乙ノ二科ヲ  
立テ甲科ハ議案ノ如クシ乙科ハ試業三回ノ内  
二回上等ニ登ルモノヲ乙科トシ甲乙二科ニ入  
ル者ヲ登第トシ之ヲ實際ニ試ルヲ簡要ト存候  
帆足龍吉  
科擧ノ法郡縣ニハ行フベシ封建ニハ行ヒ難カ  
ラン諸侯ノ臣素ヨリ世祿ヲ舊アリ又相應ノ委

任アリ假令濟世ノ才ヲ抱クトモ其國ヲ離レ朝  
榮ヲ求ムルニ望ミアルマジ亦望ミアルトモ落  
第面目ヲ失フヲ恐レン故ニ募ニ應スル者落魄  
書生成ハ農商間ノ人ニ過ギズ天下ノ士ヲ網羅  
スト云ガタシ

毛受將監

大略同論

赤岸兵藏

盛ニ學校ヲ開キ才德ノ士ヲ撰擧スベシ



熊谷貞藏  
官ニ任スルハ廉耻節操ヲ第一ニ撰スベシ又試  
官各甲乙ヲ定メ登第セシメシ後チ其任ニ堪ヘズ  
廢セラレ、時ハ初メ甲乙ヲ定シ試官モ連坐ノ  
御處置アルベシ

水野立三郎

毎年一度有志ノ士ヲ募ノ策此文中ニ加入コレア  
ルハ何如ノト存候

平井東馬

有志ノ士ヲ募ルハ定數アリテ可ナリ

平山志右衛門

其性魯ナル者モヨク事ヲ成シ敏ナルモ事ニ堪  
ヘザルノ類アレバ必ズ坐上ノ對策ヲ以テ其人  
ヲ取捨シ難シ試官注意スベシ

富松何右衛門

文武雙立シテ人才登庸ノ法立サセ度奉存候

河口市之丞

博ク德行才識アリテ時務ニ適用ノ士ヲ撰ムベ



シ試官ハ重任タリ在廷賢明ノ人親テ試ラル、  
モ允當ナリ併此法郡縣中ニ在テハ人才好テ出  
ベシ封建中ニテハ出ルノ難カルベシ宜ク其領  
主盡カシテ人才ヲ出スノ法ヲ立ベシ

議長ヨリ公議人へ達書

公議所法則案改正ニ付例ノ如ク入札ヲ以テ五  
名ヲ交撰可致事

當分ノ内第十字揃十一字公議相始メ候事

第二号御用金ヲ可廢議初次可否決定ノ節法則

備ハラズ見込違有之ニ付本日入札法ヲ以テ再  
決議ニ及ビ候處

可トスル者九十人

否トスル者三十六人

御用金廢止ヲ可トシ國債法ヲ非トスル者三十二人  
御用金廢止ヲ否トシ國債法ヲ可トスル者一人  
無定見一人

是ニ因テ可ト決シ候事

第二號決議奉伺



天裁候書付

第二號御用金可廢、議御採用相成可然旨衆議  
一定仕候ニ付奉伺

天裁候若シ御改正、廉有之候節、勿論御採用  
有無共御垂示、上御施行有之度候也

四月

議長

猶以御垂示、節議案二枚、内一枚へ御採用、  
有無共御檢印、御附札有之度候也

別白

御用金ヲ廢シ國債法御設、儀決議相成候ニ付  
以來不得已、費用有之節、國債法ヲ以御借リ  
入レニ相成且御一新以來今日ニ至ル迄農商等  
へ御申付相成候御用金、即今之ヲ國債ト致シ  
其者共申立次第國債法割合、利息御拂ニ相成  
候様仕度奉存候

四月

議長

本日箱訴ヲ檢閲ス



官版御用

御彫刻所

神田旅籠町一丁目

竹口瀧三郎

本町四丁目

御書物所

上州屋惣七



明治二年己巳四月

公議所日誌

第九



外國官問題十七條

第一

一 開鎖ノ論古今議者ノ說甚多シ或ハ夷狄ハ禽  
 獸ナリ迄ツクヘカラス或ハ我邦富強未タ充  
 實セス彼ノ長ヲ取り我カ短ヲ補ヒ然ル後ニ  
 攘フヘシ或ハ全ク西洋ノ風ニ教化シ盛ニニ  
 學校技藝ヲ開キ炮艦ヲ熟鍊シ然ル後ニ真ノ  
 掃攘ヲ施スヘシ或ハ夷人ヲ斬ルヘシ種々其



說今日ニ至リ止マス若シ之ヲ開カントセハ  
方今ノ交際ニテ永續スヘキヤ將夕別ニ交際  
ノ道ヲ建設スヘキヤ果シテ如何

第二

一 縱令之ヲ鎖スニ至ラハ斷然之ヲ掃攘シテ可  
ナルヘキヤ將夕或ハ在住外國人民ヲ斬殺シテ  
可ナルヘキヤ彼来リ抗スルノ節之ト對應ス  
ルノ道果シテ如何

第二

一 若シ彼軍兵ヲ以テ来リ攻ルノ節我ニ對應ス  
ル兵備ナクンハ我國人  
皇室ト共ニ倒レテ止ムヘキカ當然ナルヤ如  
何

第四

一 若シ彼ト戦争スルノ期ニ至リ斷然兵力ヲ以  
テ彼ト争フヘカラサルヲ論シ異議ヲ起ス者  
アラハ如何シテ之ヲ説得スヘキヤ如何

第五



一若シ鎖港ト一決シ互ニ戦闘ヲ興スノ節我堂  
王室ヲ何レノ國ニ安置シ奉リ何ノ兵力ヲ以  
テ之ヲ保護シ奉ルヘキヤ其目的ノ實備果シ  
テ如何

第六

一今日我カ邦ニテ妄リニ無罪ノ外國人ヲ斬殺  
シ或ハ惡金銀流布シ或ハ莫太ノ金銀ヲ借  
用シ年月ヲ經ルニ從ヒ種々ノ長曲事重ナリテ

各國申シ合セ兵ヲ動シ政府ヲ迫リ其曲事ヲ  
詰問シ或ハ開港地ヲ奪領シ或ハ通航ヲ押ヘ  
或ハ諸島ヲ掠ムルノ節如何シテ之ヲ防禦ス  
ヘキヤ將タ何ノ策ヲ以テ之ヲ壓制スヘキヤ  
如何

第七

一即今ノ形勢ヲ以テ見ル時ハ開港ヲ好ム者ハ  
西洋ノ道ヲ主張シ鎖港ヲ欲スル者ハ和漢ヲ  
主張ス若シ之ヲ一ニ歸セシメントセハ將タ



何レノ道ヲ以テ嚴然確定決斷スヘキヤ如何

第九

一我神道ヲ以日本全州ノ人民ヲ教導スルノ法  
現在實地上ニ施スノ道果如何

第十

一若シ之ヲ一ニ歸スル時ハ開鎖ノ議イツレカ  
當今ノ時勢ニ適當スルヤ其利害得失果シテ  
如何

第十一

一我邦各國ノ條約セハ人民貿易スルニ在リ  
今ヤ數年以前ヨリ各國ヨリ競フテ海陸軍兵  
隊ヲ我

朝ニ居住セシメ自己ノ人民ヲ保護シ若シ異  
變アル時ハ忽ニ兵ヲ出シ各處ヲ守ラシム即  
今英國ノ兵隊大凡三千人在リ佛之ニ次ク米  
其他ハ海軍ノ三ナリ我堂々

神州ニテ古昔未タ外侮ヲ受ズ其輕侮ヲ招ク今  
日ヨリ甚シキハナシ之ヲ清浄スルノ法現在



實地上ニ施スノ道如何

第十一

一按スルニ右ノ兵隊ヲ移住セシムル事萬國ノ公法ニ依ル時ハ自己ノ屬國ヲ除クノ外兵隊ヲ備ヘテ交際スルヲ聞ス數年以前ヨリ外國商民ヲ殺害セシテ數十人ニ及フヲ以テ彼ノ政府ニ於テモ一名殺害ニ達フ毎ニ兵真ヨ増如シ終ニ今日ノ盛ニナルニ至レルナリ此殺害ノ所業進ニ增長スル時ハ依モ亦從ツテ兵

員ヲ増シテ守備益々堅固ナリ之ヲ制止スルノ道果シテ如何

第十二

一若シ年月ヲ追ヒ外國人ヲ殺害スレハ彼ノ兵員從リテ増加シ終ニ各港ニ充滿スル時ハ我神州ノ汚辱之ヨリ甚キハナシ即今ト雖氏既ニ大事ヲ誤ル充多シ我邦從來政教ヲ以テ即今外國ニ對シ右ノ諸件ヲ一洗改新スルノ道現在實地上ニ施スノ策



果シテ如何

第十五

一 外國人追々兵負ヲ居住セシムルハ我政府内  
外人民ヲ保護スル能ハサルヲ察シ其生殺與奪  
ノ權政府ニ歸着スルマテハ兵隊ヲ本國エ  
歸送スルヲナリカタキヲ陳言ス夫レ生殺與  
奪ノ權政府ニ在リ内外人民ヲ保護シ以テ信  
義ヲ貫クニ在リ今ヤ外國ヨリ我國內ノ可否  
ヲ制スルニ至ル此汚辱ヲ洗淨スルノ實計果

シテ如何

第十四

一 舊幕ノ時生殺黜陟ノ權下民ノ手ニ在リ故ニ  
政權竟ニ一新ニ至レリ今ヤ其覆轍ヲ踏ムノ  
憂ヲ防禦スルノ道如何

第十五

一 各國公使市在通行ノ節我守警ノ兵備クニテ彼ノ兵隊ヲ前後ニ擁シ横  
行スルノ節如何シテ之ヲ差留ヘキ乎將ク之  
ヲ禁セムトモ可ナルヘキヤ如何



第十六

一府藩縣ノ士眞兵隊等道路通行之節外國人ト  
行逢亂暴ニ及フノ時ニ當リ如何シテ之ヲ制  
スヘキヤ將政府ノ威權ヲ以之ヲ制スルノ力  
アルヤト即今各國人ヨリ問訊スルノ節其信  
實ノ確答果シテ如何

第十七

一和戰之儀ヲ明断セント欲ハ果決猛烈之舉ニ  
在リ若一歩モ寛仁ニ失スレハ忽姑息因循之

惡弊ニ陥ル政權終ニ奸民之手ニ落ルナリ故

ニ一刀兩断之大決策ヲ乞フ如何

右之条ニ實ニ當今ノ御大事現今實地上ニ施用  
スヘキ大目的ヲ定メ時勢到當ノ御評議希望仕  
候

四月

外國官



外國官問題四條

第一條

方今 王政維新ノ際舊幕ヨリ引續外國ニ逋債  
大凡六百万弗一弗ハ凡我三分ニ朱余也ノ高ニ及ブ故ニ今急速此  
債ヲ償フノ催促アリ即今内外費用夥シ是ヲ償  
フノ道果シテ如何

一長州下關一條ニ付英佛米蘭ニ償金三百万  
弗ノ内残り高百五十万弗

一横濱ヲリエンタルバンク英商兩替屋ヨリ借入高



五十万弗

一英商ヲルトヨリ貨幣局エ借入高大凡百万弗餘

一外國人ヨリ諸藩ノ引負高政府關係ノ分凡二十三万弗

一長崎製鍊所引當ノ金高并横須賀製鍊所燈明臺造幣局鑛山局軍艦等外國人ニ關係スル諸拂高迄ヲ通計シテ本文ノ金高ニ至ル也然レ凡大凡ノ數ニシテ詳細ニ記シ難シ

第二條

即今世上一般惡金銀流通シ貿易ノ間此惡金銀外國人ノ手ニ落チ其高大凡正金三千万兩ニ及ブ今其者等ヨリ其公使エ訴出此惡金銀ヲ外國官ニ携來良金ト引換ユルカ又ハ其損毛ヲ償フカトイヘリ若シ其説ノ如クスレバ此金大凡六百萬兩ナリ之ヲ辨スルノ道果シテ如何

新定約書第三則ニ云一分銀目方二文目三分ハ日本ノ銀貨ニテ其重サト口イ貫目百三



十四分レインニ下ラズ其質ハ純銀九分ニ  
下ラズ其交ゼモノハ一分ヨリ多カラザル  
ベシ  
右ノ通定約書ニ掲ケ有之此貨幣ハ日本ノ  
物ニシテ日本ノ物ニ非ズ則内外ノ中間ニ  
アル商賣ノ媒約ヲナスモノナリ仮令ハ日  
本人ナガラ外國人ノ小遣トナル間ハ日本  
人ノ自儘ニナシ難キト同様也故ニ舊幕府  
ノ節ハ其約書ヲ守リ混和物ハ十分ノ一部

分ニ過キバト雖近來追々惡幣吹立且又  
大坂ニテ新鑄ノ一分銀其質甚惡シク且貳  
分金モ同様濫惡ニ歸ス故ニ本文ノ如ク外  
國人ノ損毛ニ及ビシナリ是ハ貨幣局ニテ  
貨幣ハ政府ニテ何様ニ拵出ス紙幣同様  
通用スルモノト昔風ノ所存ニテ思ヒ誤シ  
ヨリ發源シタルナリ

### 第三條

若シ各國公使ヨリ右ノ惡金銀ハ政府ヨリ出セ



シハ勿論ナレ其内又他所ニテ偽造ノ物モアルヤト問訊スル節其確答果シテ如何  
是ハ政府及政府外ニテモ竊ニ濫惡ノ二分  
金ヲ鑄造セシ風聞アレバナリ本文外國人  
ノ手而已ニ三千万兩アリシトノ説ヲ以テ  
見レバ新舊政府ニテ造リ出セシ惡性ノ貨  
幣而已ナラズ他所ニテ竊ニ鑄造ノ分亦少  
ナカラズト推シ知ルヘシ

第四條

日本政府ニ於テ惡金銀ヲ製造シ定約ニ背キ内  
外人民ヲ惑乱スル汗名ヲ萬國ニ得タリ此汗名  
ヲ一洗スルノ道果シテ如何  
右ノ條々ハ實以國家ノ大事一官一局ノ力能ク  
挽回スベキニアラズ宜シク速ニ御評議有之度  
候也

三月

外國官

右存意有之者ハ可成丈差急キ申出候様有之度  
候事



議長

右兩様問題ノ儀ニ付四月十七日外國官判事山口範藏同中井弘藏公議所へ出張アリテ其事情顛末ヲ議員一同へ說話ニ及ビ同二十二日二十三日議員一同見込書ヲ議案臺上ニテ讀上ゲニ及ベリ

議長ヨリ公議人へ達書

凡至急要件ノ問題コレ有ル節議員一同定見ヲ

認メ議事所ニテ讀上ゲ衆議ヲ盡シ同論毎ニ集メテ一案ヲ作り建白スルニ尤臨時非常ノ事ナレバ定則ノ可否ニ拘ラズ惟行政官ノ參考ニ備ルヲ要ス

但シ評論務メテ簡易ヲ要ス策問虚飾ノ文体ヲ用ヒザルヲ欲ス

四月

議長

議長ヨリ達書

諸侯公議參聽願ノ向ハ前以其藩議員ヨリ申入



每會十人迄差支無之事

四月

議長

五月中議員幹事

稻津 濟  
伊達 五郎  
雨森 謙三郎  
錦織 四郎太夫  
新宮 元太夫  
中川 潜叟

廿三日箱許ヲ開閱

# 官版御用

## 御彫刻所

神田旅籠町一丁目

竹口瀧三郎

本町四丁目

## 御書物所

上州屋惣七



明治二年己巳四月

公議所日誌 第十



公議所日誌第十

四月廿三日例刻當分副議長神田孝平議員百五十八人諸藩參聽人例席へ出仕外國官問題ノ評論ヲ讀上ゲ午後第一字制度寮撰脩森金之丞 詔書ヲ持參例席ニテ之ヲ讀上ル一同拜伏敬聽ス

詔書之寫

詔朕嚮ニ汝百官羣臣ト五事ヲ掲ケ天地神明ニ



質シ綱紀ヲ皇張シ億兆ヲ綏安スルヲ誓フ然ル  
ニ兵馬倉卒未ダ其績ヲ底サズ朕夙夜上ハ以テ  
神明ニ畏レ下ハ以テ億兆ニ慙ツ今ヤ乃チ親臨  
汝百官羣臣ヲ朝會シ大ニ施設スルノ方ヲ諮詢  
ス是神州安危ノ決今日ニ在リ誠ニ宜シク腹心  
ヲ披キ肺肝ヲ表シ可否ヲ獻替スベシ朕將ニ勵  
精竭力大ニ經始スル所アラントス汝百官羣臣  
ソレ勗哉

明治二年己巳四月

輔相心達書取ノ寫

今度御國是ノ大基礎確立可被為在御會談ニ付  
勅詔之通被仰出候間右見込之所書取ヲ以來月  
四日迄ニ可被差出候尚追々箇條ヲ以 御下問  
被為在候間此旨可被相心得候

但シ別段存付有之面々ハ參 朝可有言上  
事

四月廿二日

右讀上げ了テ第六号外國商業規則ノ議案ヲ各



議負へ配分シ第四字一同退散セリ  
同廿七日會議ニ付例刺上院副議長松浦肥前守  
議長大原少將制度寮撰 脩森金之丞當分  
副議長神田孝平伊勢渡會府判事元田直太郎議  
負二百五人參聽ノ諸侯戸澤中務太輔本多河内  
守保科彈正忠其外諸藩參聽人例席へ出仕例刺  
ヨリ議員改正第四号議案并第五号漢土及第法  
ノ可否ヲ決シテ後第六号外國商業規則案評論  
ヲ讀上ケ畢ハ今日配分ノ議案ヲ清取り一同退

散ス

改正第四號議案

制度寮撰脩

森金之丞

第一

士分以上通稱ヲ廢シ實名ノミ可用事

第二

士分以下ハ今形ニシテ差置キ追テ可議事

第三

官位ヲ以通稱ニ換ルヲ廢止スル事



第四

在位在官ノ者ハ其官位ヲ姓名ノ上ニ表シ可用事

但私用此例ニ不拘事

第五

他人ヨリ稱呼スルニハ第四条ノ例ニ不拘何名  
タリテ其便利ニ從テ之ヲ用ル随意タルベキ事  
右議案可否決定ノ藩々  
可トスル者百六十三人

|    |     |     |     |     |     |    |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|----|
| 駿州 | 一橋  | 秋月  | 母里  | 柳本  | 大野  | 小幡 |
| 尾州 | 田安  | 鹿島  | 下妻  | 大田喜 | 岡山  | 新田 |
| 紀州 | 前橋  | 林田  | 安中  | 庭瀨  | 山家  | 栢原 |
| 肥後 | 弘前  | 岡部  | 園部  | 今治  | 久居  | 吉井 |
| 藝州 | 越前  | 郡山  | 川越  | 小松  | 沼田  | 柳生 |
| 肥前 | 高松  | 福本  | 福江  | 高槻  | 薦野  | 舉母 |
| 水戸 | 岡寄  | 岩村田 | 佐土原 | 麻田  | 三日市 |    |
| 津  | 久留米 | 西尾  | 隱岐守 | 小田原 | 萩野  | 山中 |
| 西條 | 飢肥  | 新谷  | 大洲  | 多古  | 敦賀  | 山崎 |



|      |       |     |       |      |    |      |      |      |
|------|-------|-----|-------|------|----|------|------|------|
| 丹州峰山 | 松本    | 喜連川 | 古河    | 持木   | 黒石 | 昌平學校 | 小濱   | 土浦   |
| 彦根   | 島原    | 淺尾  | 久留里   | 丹南   | 西端 | 淀    | 佐野   | 伯太   |
| 安志   | 小野    | 宇都宮 | 田沼玄蕃頭 | 竜岡   | 高富 | 新見   | 岡    | 勢州龜山 |
| 笠間   | 延岡    | 鯖江  | 秋田新田  | 小見川  | 龜山 | 八戸   | 廣嶋新田 |      |
| 三上   | 矢嶋    | 府内  | 廣瀨    | 熊本新田 | 櫛良 | 大垣   | 飯野   |      |
| 郡上   | 井上河内守 | 三根山 |       | 田原   | 飯野 | 大垣新田 | 櫻井   |      |
| 丸岡   |       |     |       |      | 飯野 |      |      |      |
| 豫州吉田 |       |     |       |      | 飯野 |      |      |      |
| 曰杆   |       |     |       |      | 飯野 |      |      |      |
| 日出   |       |     |       |      | 飯野 |      |      |      |

|    |    |      |    |      |     |      |    |      |
|----|----|------|----|------|-----|------|----|------|
| 綾部 | 高岡 | 出雲   | 豊岡 | 岸和田  | 足守  | 福知山  | 尾寄 | 否    |
| 大初 | 飯田 | 大田原  | 烏山 | 出石   | 岩槻  | 丸龜   | 森  | 者十一人 |
| 芝村 | 吉田 | 西大路  | 生實 | 紀州新宮 | 小城  | 完戸   | 上田 |      |
| 堀江 | 山上 | 房州勝山 | 神戸 | 中津   | 多度津 | 紀州田邊 | 金澤 |      |
| 麻生 | 苗木 | 小倉新田 | 犬山 | 下館   | 三日月 | 唐津   | 新庄 |      |
| 岩村 | 高取 |      | 杵築 | 成羽   | 津和野 | 佐倉   | 須坂 |      |
| 一宮 | 高嶋 |      | 水口 |      |     |      |    |      |

公議所日誌十



宇和嶋 福山 新發田 濱田 壬生 中村  
人吉 笹山 三池 長尾 推谷

可否相半スル者九人

柳河 膳所 作州勝山 三田 高鍋 蓮池

三草 長瀨 村岡

無定論ノ者十一人

姫路 明石 松代 平戸 宮津 高遠 館山

三春 太田備中守 鶴牧 伊勢崎

漢土及第法可否決定ノ藩々

可トスル者百四十六人

駿州 高松 姫路 持木 宇土 水口 岩槻

紀州 前橋 西條 大洲 延岡 三田 成羽

肥後 一橋 唐津 舉母 鹿島 田原 小野

藝州 福山 田安 高富 一宮 長尾 府内

肥前 高鍋 大村 山家 薦野 郡上 杵築

水戸 大垣 土浦 吉田 麻田 三草 新谷

津 大聖寺 津和野 紀州田邊 田沼玄蕃頭

宇都宮 鉄肥 生駒讚岐守 福知山 小見川



|       |      |      |    |    |      |    |    |       |
|-------|------|------|----|----|------|----|----|-------|
| 井上河内守 | 喜連川  | 西大路  | 佐倉 | 膳所 | 佐土原  | 富山 | 中津 | 岡山新田  |
| 人吉    | 龜山   | 丸龜   | 佐野 | 丸岡 | 岩村田  | 笠間 | 濱田 | 西尾隱岐守 |
| 古河    | 小城   | 笹山   | 小幡 | 飯野 | 小倉新田 | 岡崎 | 飯田 | 木垣新田  |
| 金澤    | 完戸   | 廣島新田 | 母里 | 長瀬 | 三日市  | 庭瀬 | 高岡 | 萩野山中  |
| 須坂    | 櫻井   | 柳生   | 芝村 | 推谷 | 久留里  | 蓮池 | 館山 |       |
| 守山    | 秋田新田 | 三上   | 黒石 | 三池 |      | 福江 | 大野 |       |
|       |      |      | 今治 | 多古 |      | 下妻 | 柳本 |       |

|      |         |     |      |    |    |      |
|------|---------|-----|------|----|----|------|
| 越前   | 吉井      | 新發田 | 鯖江   | 上田 | 柳河 | 熊本新田 |
| 雲州   | 高取      | 多度津 | 小田原  | 島原 | 小濱 | 昌平學校 |
| 中村   | 林田      | 三日月 | 岡部   | 出石 | 三春 | 岸和田  |
| 平戸新田 | 麻生      | 勝山  | 安中   | 犬山 | 淺尾 | 綾部   |
| 新見   | 大田原     | 苗木  | 堀江   | 伯太 | 豊岡 | 三根山  |
| 久居   | 大田喜     | 山上  | 丹州龜山 | 園部 | 生實 |      |
|      | 小松      |     |      | 神戸 | 高島 |      |
|      | 下館      |     |      |    |    |      |
|      | 否トスル者九人 |     |      |    |    |      |

公議所日誌十

七



丹南 八戸 廣瀬

可否相半スル者五人

尾崎 足利 岡 丹州 峯山 森

無定論ノ者二十八人

加州 尾州 久留米 彦根 明石 松代 淀

松本 平戸 川越 宮津 三州 吉田 伊勢崎

秋月 壬生 敦賀 柳良 高遠 高槻 日出

西端 沼田 山寄 安志 新庄 足守 鶴牧

龍岡

第四號決議奉伺

天裁候書付

第四号通称ヲ廢シ實名ヲ可用ノ議再次會議衆  
論一定仕候ニ付即奉伺

天裁候若シ御刪正ノ廉有之候節ハ勿論御採用  
ノ有無共御垂示ノ上御施行有之度候也

四月 議 長

猶以御垂示ノ節議案二枚ノ内一枚ハ御採用ノ  
有無共御檢印ノ御附札有之度候也



第五號決議奉伺

天裁候書付

第五号漢土及第法御參用ノ議御採用相成可然  
旨衆議一定仕候ニ付奉伺

天裁候若シ御刑正ノ庶有之節ハ勿論御採用ノ  
有無共御垂示ノ上御施行有之度候也

四月

議長

猶以御垂示ノ節議案二枚ノ内一枚ハ御採用ノ  
有無共御檢印ノ御附札有之度候也

# 官版御用

## 御彫刻所

神田旅籠町丁目

## 竹口籠三郎

本町四丁目

## 御書物所

## 上州屋惣七







